

(6) 環境ホルモン型問題の解析

- ★被害：生態系に対しては「有りうる」ことが分かってきた。しかし、ヒトに対しては、「被害は何か」、という定義すらははっきりしなかった。
- すなわち、将来起こりうるor起こるかもしれない被害が議論の対象。
- このような問題を(1)水俣型と同じような反応をすることの「愚かさ」。その愚かさすべての当事者は気付いていたのか？
- 少なくとも、すべての議論を、「生態系」と「ヒト」とを分けて考える必要あり。

